（一）　第四十九號　（金曜日）　京城新報　明治四十一年一月十日　（日刊）　明治四十年十一月三日第三種郵便物認可

京城新報

●新聞紙　金壹圓貳拾錢　●郵稅一月前金貳錢　●郵稅六ヶ月前金拾錢　●廣告料　行一回金三十九字詰一十五錢　●四號活字一行金四字詰一行金四錢
陰曆　十二月七日
發行兼編輯人　山下英男
印刷人　西澤小南通
發行所　京城新報社
電話六六三

覆面を脱ぜる日本

本篇は英人マッケンヂ氏所述にして『貿易』より轉載したるもの也

日本の移民問題

▲經濟國柄の排斥　五年前、英領古倫比亞に於て日本移民問題の沸騰せるに方り、本件は王室委員會の議に附托せられ、同委員會の報告は頗乎たる敵意を帶べるものなりしも、此報告の與へたる證據書類を見るに、日本人排斥の主因に單に經濟上の事情より發するものなるは人の耳目を聳動せしめたり。此中には日本人の道德觀念に對し又た生活狀態に關して抗議せるもの之ありたるも、こは僅少にして、主たる要因は日本人は白人よりも廉賣すといふに在り、委員は報告して曰く『日本人は支那人よりも、造園、木挽、漁獵及び普通の勞働に於て共に敏捷なる競爭者なり』と、何れの證言も日本人は支那人に比して更に大なる强敵なりといふに帰着せざりし也。

▲警察委員の報告　同委員會の結論に曰く日本は獨立的精力的にして才幹あり白人の生活狀態を少くとも外容に於て準用するに躊躇せず又寧ろ之に腐心せる者少からず日本人は英語を學ぶの捷徑を得るに努め時として被雇當時の條件に之を提供するものあり、されど彼は支那人の如く契約を確守せず又白人の生活狀態を準用する側、白人の惡習に感染し易きこと支那人よりも甚しと稱せらる古倫比亞洲民一致の感想は日本人は到底白人と同化せず又同化する能はざる人民なる事支那人に比しては多少好きし點なきにあらざるも永久移住し來るに於ては殆ど支那人と等しき害毒を流すべく彼等支那人よりも精力あり向上力あり且獨立の精神を有する丈に更に危險なりと云ふに在り。

▲印度人亦排斥　亞米利加印度人亦日本人に對して敵意を挾む者の一也、一會長の彼等を代表しての言に依れば日本人の此國に來る者漸次其の數を增し、今や到る所に日本人を見ざるなきに至れり、フレザー洲に行かんか此所にも日本人あり、ハウナウンドにも又インデヤン洲にも日本人あり漁期に入るも我等は出漁の機會を有せず我等が小舟に網を乘せて出づる二三度にして網を失ふ此網は日本人が切り去るなり斯くて彼等は生計の道を得ざるに及ぶ日本人は實に我々及び白人を殺すものなりと。

▲布哇の移民狀態　布哇に於て吾人は第二種の日本移民即ち白人の爲めに勞働する移民を見る現在同島の日本人は他國民の總數に超過するの人口を包有し移民としては良好なる成蹟を有せり從來彼等に關しては何等の紛糾も起らざりしかど近年其人口の增加し來ると共に將來或は難事を生ずるなきやを懸念せしむるものあるに似たり然れども全體に於て日本移民は有能の勞働者と云ふを得べし唯布哇に於ける目下の問題は日支兩國人の競爭にあり一考したる所にては日本人の力遙に優れるに似たり日本人は淸潔を好み浴場なき地に住居せず彼等は時として喧騷に亘ることあるも單身に於ては秩序正しき人種にして苦しき勞働を忍び且つ浪費することなく少し但し此等の美點も進歩するに從つて變態を生じ今や同島に於て日本人に對する非難は動もすれば機會に乘じて罷工を企てんとし時機を利用して賃錢を値上せしめむとするに在り。

東南及滿州旅行談

陸軍歩兵大佐小澤德平氏談

最も好適の勞働者としてきやの人の力遙に優れるに似たり日本人の推奬するを

十月十八日鴨綠江、松花江の河孟をなす所の分水嶺たる老嶺を越ゆ通化より吉林に通する大道の他は人烟稀粗なる大森林中の困難なる小徑を辿りまして三隊は二十二日吉林街道上の濠子哨に會合しました此地の最も富豪たる二三の家屋は昨年馬賊の襲撃を受けて燒土となつて居ましたが土地は此附近での集散地にして物貨も可なりありました翌二十三日は諸準備の爲一日滯留しましたので此機を利し當地より東北約三里の處に杉松岡と云ふ石炭山を見に行きました總て幼稚な仕方ですが一日の採掘量が千五百斤とのことでした又其東北方約三里の東安子河に鐵礦がありまして一ヶ年の產額は十八萬斤程出ると云ふことでそして同鐵鑛を試驗しますと百に對し六〇の鐵を得る割合です小なる鎔鑛爐もありまして鍋や農具を製造して居りました又石炭は水量の多き時は三通河の便により朝陽鎮又は吉林へ輸出すると云ふことです二十四日には朝陽鎮に着しました此地は旅行致した地方中の第一繁昌な市街にして戶數約一千五百柳河の左岸にあります所の大集散地です本邦及海外の貨物は鐵道により鐵嶺又は開原より來ます海龍府は其西四里にあります戶數約千二百餘市街は殆ど朝陽鎮と同じ大きさですが繁昌は朝陽鎮に及びませぬ此南地共戰役の當時は露軍が占領して居りました處で非常に堅固な掩堡を築重にも構築してありました朝陽鎮の東方に於て三通河と柳河との二流が合します夫より下流を土門河と稱し上に記してありますが土人は輝發河と申して居ります吾々はこゝにて三組又は四組に分れ私は三名にて輝發河の左岸に沿ひ人家稀なる山間の路を經午後九時頃蓮花泡と云ふ小村落に達しました無論旅店もなきこと故大なる油屋に一泊を賴みましたが快諾して其談話は今回の日露戰爭に及びましたが彼等を代表しての言に依れば日本人の此國に來る者漸次其の數を增し、今や到る所に日本人を見ざるなきに至れり、フレザー洲に行かんか此所にも日本人あり、ハウナウンドにも又インデヤン洲にも日本人あり漁期に入るも我等は出漁の機會を有せず我等が小舟に網を乘せて出づる二三度にして網を失ふ此網は日本人が切り去るなり斯くて彼等は生計の道を得ざるに及ぶ日本人は實に我々及び白人を殺すものなりと。

▲布哇の移民狀態　布哇に於て吾人は第二種の日本移民即ち白人の爲めに勞働する移民を見る現在同島の日本人は他國民の總數に超過するの人口を包有し移民としては良好なる成蹟を有せり從來彼等に關しては何等の紛糾も起らざりしかど近年其人口の增加し來ると共に將來或は難事を生ずるなきやを懸念せしむるものあるに似たり然れども全體に於て日本移民は有能の勞働者と云ふを得べし唯布哇に於ける目下の問題は日支兩國人の競爭にあり一考したる所にては日本人の力遙に優れるに似たり日本人は淸潔を好み浴場なき地に住居せず彼等は時として喧騷に亘ることあるも單身に於ては秩序正しき人種にして苦しき勞働を忍び且つ浪費することなく少し但し此等の美點も進歩するに從つて變態を生じ今や同島に於て日本人に對する非難は動もすれば機會に乘じて罷工を企てんとし時機を利用して賃錢を値上せしめむとするに在り。

北に向つて進み老嶺嶺を越ゆ暉江の河孟へ出ますと約十里の間は大森林で村落は少なく人烟稀れです四道江で慈城より出發せる一隊と落合ひまして韓畝嶺を返すと同時に畝馬の大部を車に換へました此等の準備に四道江と通化縣の間にて二日を費やしました此兩地は約六里隔たりて共に鴨綠江の最大枝流たる暉江の右岸にあります中にも通化は一小都會をなして知縣衙門並に支那風の方形の城壁がありまして可なり繁昌な町です渾江は上流の森林より切出す材木の筏が澤山岸に接着して居りましたも江は下流に危險の場所が有る爲に大なる「ジャンク」は溯りませぬが小さいのは若干もありました此附近には砂金石炭鐵鑛がありますそして韓人の大部落を始める大廟兒勾は即ち渾江の左岸通化の東南一里斗りの處にあるのであります通化縣の宜しきを得たならば追々繁昌することし思はれます此通化縣城は日露戰役の時分に露軍を退ぞけ我軍が長く占領して居つた處でありまして其の周圍の要所〳〵には掩堡を築いた跡が立派に殘つて居ります時の大隊長であつた人が此土地を敵手に渡さねばならぬ場合に迫れば此所が腹切り場だと云つて築いた堅固なる掩堡、忠魂碑、公園東中西ありまして樹木小亭なども配置能く出來て居りました

四道江より三組に分れ東中西の三道に採り

滿州諸職工

業別	日給	十二月	十一月
日本人大工	同	一、七五〇	一、六五〇
同左官	同	一、六五〇	一、六〇〇
同石工	同	一、九〇〇	一、八五〇
同手傳人	同	一、六五〇	一、六〇〇
同トタン職	同	一、六〇〇	一、五五〇
同鍼力職	同	一、六五〇	一、六〇〇
同車夫	同	一、一〇〇	一、〇〇〇
同指物	同	一、四〇〇	一、三五〇
同仲仕	同	一、一〇〇	一、〇〇〇
同ペンキ塗職	同	一、六〇〇	一、五〇〇
同木挽	同	一、六〇〇	一、五〇〇
同疊師	同	一、六〇〇	一、五〇〇
日本人桶屋	同	一、四〇〇	一、三五〇
韓人車夫	同	一、四〇〇	一、三五〇
同煉化職	同	一、六五〇	一、六〇〇
同瓦職	同	一、八五〇	一、八〇〇
同活版職	同	一、五〇〇	一、四〇〇
同鍛冶職	同	一、九〇〇	一、八五〇
同提灯職	同	一、六五〇	一、六〇〇
同井戸堀	同	一、五〇〇	一、四〇〇
同菓子製造	同	一、八五〇	一、七五〇
同表具師	同	一、二〇〇	一、一〇〇
韓人表具師	同	一、九五〇	一、八五〇
大工	同	一、二〇〇	一、一〇〇
同木挽	同	一、三〇〇	一、二〇〇
支那人大工	同	一、三五〇	一、三〇〇
同木挽	同	一、二〇〇	一、一〇〇
同石工	同	一、三〇〇	一、二〇〇
同煉化職	同	一、六〇〇	一、五〇〇
同人夫	同	一、六〇〇	一、五〇〇
韓人井戸堀	同	一、六五〇	一、六〇〇
同人夫	同	一、六〇〇	一、五〇〇
文苑			

火事に就て（三）

火災の原因　火災蔓延の理由　火災の火家屋居住民を火災區域外に追逐する爲めに差遣せられたる軍隊は火災區域の擴がると共に住民を追ひ追はれたる住民再び自家に入るをすら許さざりき、消防夫なき場所に於て義俠者が火災防止に勉ひるをさへ妨げたり更に甚しきは少數の者が自家の寶物を火災の厄より免れしめんため大膽にも立働き更に自家の住宅を救ふが爲め火を他に轉じ得る事可能なる迄に活動しつゝある者をすら强力を以て立退かしめたりき、而して當直者（商館せんの）の中には危險をも省みず進んで火の進行の幾分を防止せんと必死の働きをなせるも軍隊の手によりて追はれぬ自家燒失自家燒失我れ等は今より何處に住居し何を食すべき妻子を如何にすべき飢死か自殺か、あらず〳〵茲に意を決し軍隊の目を忍んで自家に飛込めるものもあり市民の義俠者が許されたる範圍内に於て火災と戰ひ大効を擧げたるは明かにして若し住民にして火災區域より追逐せらるゝ事なからんか偉大なる効を奏せるは事實なり、造幣局、郵便局及び評價會社は其所に止まれる人々が僅かなる用水の注射に依つて燒を免れしめたりバラース、ホテルもかゝる安全なるを得たりき、されば放逐せられたるものの中は軍隊の强力の爲めに放逐の時運び去りしもの〳〵外悉く烏有に歸せしひるの止むなきに遇ひ而かも軍隊の命令は彼等が家財を撲擇する除地なき迄逐逃に下れり又市廳に於て必要記錄を運ばんとせるに軍隊は之れを防止し其の不當を說破せられて遂に許可を與へたる時幾千百の書類は已に灰燼と化せり。

現今火災の起るや桑港にてはポンプを以て港灣より機械にて水を汲上げ又はダイナイトを利用し市民の消火に對する學識は著しく進歩せりかくて非常なる大火災は最も燒失に適したる街の中心にて消し止められぬ何たる偉觀なりしぞ。

市の建物に對する火災の影響を攻究するに最も重要にして興味あるは火燄猛烈なる場所の光景を說述するに在り。

壯麗なりし市の建物は火熱に依つて碎破し盡され堅牢無比の鐵道線路すら原型を撓曲せらるゝを見るに到りては吾人共に驚愕ざらんと欲するも能はざるなり、現場より百呎も隔離せる市廳の芝生に救度せられる花崗石は粉碎せられ二百呎以外の地に立せる波土場、店舗、庖厨、便所すらは陶器せられたり、玻璃は熔流して新型皿の幾千は破壞せられ玻璃は熔流して新型を爲し安全なるべき防火家屋も灰燼に歸し壁天井は片碎せられ更に驚くべき事は避難の爲め埋藏せられたる者が鎔火數週の後掘出せるに火勢の襲撃を蒙むり居たる寶物及び火災區域に保存せられたる油壺が此の大渦中より免かるゝを得たるは奇しき一現象なりとす。

外國貿易月報（十二月分）

關稅局調査

輸出額

品名	輸出額
豆及莢豆	八〇二〇五
米	七五〇四四
牛皮	八四六四三
乾鹽肥料魚類	六八一一
畜	六四一五九
小麥	四七一二〇六
一月以降累計	三、九三一、六一七
	七、四二四、二三
	六二一、二九
	四七、八一
	七三二、五四〇
	三六六、四一九

輸入之部

品名	輸入額
石炭	四四一、二四五
紡績糸	三七、八〇〇
煙草	三〇、〇〇一
絹反物	一五一、六六四
白木綿	一四八、三一〇
生金巾	一一三、八〇五
酒及サムシュ	一一二、九〇五
衣服及小間物	九六、一三〇
包裝用繩叺	九一、〇〇三
石炭及コークス	八二、三一五
食料品	八一、〇九四
木材	七四、五二一
晒金巾	七二、四三一
鐵軌及鐵道材料	七一、七四一
マッチ	七〇、五四四
生乾果實	五五、八五〇
砂糖	四〇、九九五
	四〇、三二五
一月以降累計	二、四三一、二四八
	一、〇四二、一二〇
	二、七二〇、一四四
	一、五七〇、一四四
	一、一一〇、三四八
	一、三二一、一二六
	一、九一一、二五九
	七四一、八五〇
	六七〇、八八八
	七二一、五三三
	八二〇、四一五
	一、九二四、五二八
	四二八、九九八
	三九一、六六一
	一九七、二五二
	七三一、三九二

輸出入合計

品名	輸出	輸入	合計
豆及莢豆	八〇二、〇五	一、六二一、二〇九	二、四二三、二一四
米	七五、〇四四	七六、五二一	一五一、六六五
牛皮	八四、六四三	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
乾鹽肥料魚類	六八、七一一	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
畜	六四、五九八	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
小麥	四七、二〇六	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
輸入之部		一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
石炭	四四五、四四六	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
紡績糸	五七、三四八	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
煙草	一、一一〇、三四八	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
絹反物	一、三二一、二五九	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
白木綿	一、九一一、二五九	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
生金巾	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
酒及サムシュ	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
衣服及小間物	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
包裝用繩叺	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
石炭及コークス	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
食料品	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
木材	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
晒金巾	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
鐵軌及鐵道材料	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
マッチ	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
生乾果實	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
砂糖	七四一、八五〇	一、三二一、二五九	一、四〇五、九〇二
合計	一、九七九、六二〇	三、六二四、六二〇	五、六〇四、二四〇
金	四四六、三四一	五五七、三四八	一、〇〇四、六八九
銀	二一二、九〇一	四四五、四四六	六五七、三四八

右之內輸出入品の重なるものを擧ぐれば左の如し

品名	輸出額	輸入額	輸出入合計
米	一、六二一、二〇九	五七、八二一	一、六七八、八二一
石炭	七五、五四一	一、三二一、二五九	一、四〇六、七八〇
鎮南浦	三三〇、七九一	七九、五四一	四一〇、三三二
木浦	一五六、六九一	一、三二一、二五九	一、四七八、二五〇
群山	一四六、八八六	一三八、二五一	一、二四、〇三七
馬山浦	四七、五六六	四七、〇一七	一、〇三〇、五八三
仁川	四四八、五九七	三五、九九五	四八〇、五九二
釜山	五六、八八七	一、三二一、二五九	一、三七八、一四六
元山	一五〇、一四八	三六、〇七七	一八六、二二五
城津	一五、二五一	三二〇、五九九	三三五、八五〇
新義州	三一〇、七九一	一、三二一、二五九	一、六四二、〇六〇
京城	一、九七九、六二〇	三、六二四、六二〇	五、六〇四、二四〇
合計	四四六、三四一	一、〇〇四、六八九	一、四五〇、〇三〇
金	二一二、九〇一	五五七、三四八	七六七、二五〇

絃のみだれ（四十三）

小說　永井櫻園

赤坂田町三河家の樓上で、唐木の角火鉢を擦して語らひ居るは、大川入五郎と竹本清糸の兩人である。

『モウ來さうなもんですが、奈何致たのでございませう。』

清糸が燐かけた煙管でポッと灰吹の端を叩けば、八五郎も喫しかけの卷煙を灰へ差て、

『もう十一時二十分過ぎだ、家が知れないんぢやあるまいか。』

と、金時計を眺めながら云ふ。

『家の知れないやうな事はございません、三河家と云ふのは何處かつて聞きますから田町で三河家と云へば有名の料理屋で誰でも知つて居ると、能く話して置きましたから……。』

『それぢや、余り早く來ても濟まないと思つて、態と悠然して居るのかも知れない。』

折しも女中が昇つて來て、

『あの勇五郎と云ふ方がれ入來になりまして、問ひかけた。

『いや、何う致しまして、古道具商と云へば、大した物でも商いするやうに聞こえますが、古道具と云ふ名の附く物は何一つ有りませんので、景氣が宜いの惡いのと申されますやうな身分ではございません。』

『けれども何うせ商賣を爲る程なら、些と大手に遣つたら儲かるでせうに。』

『ろりや、斯う申すと何ですが、多年の經驗で、品物の鑑定も何うやら能るやうになりましたから、せめて父子兩人が安樂に其日が送れるだけの商法が爲て見たいと思ひますが、何を申しますにも、御承知の通り唯た一人の娘を寄席に出すやうな身の上でございまして、先立つ資本が無いもんですから、田樂長家に樣みまして、壞れ道具を少しづゝ商ひまして、漸く其日〳〵を過ぐして居るやうな始末でございます。』

『然うか、直ぐ此方へ案內して下れ、そして何でも宜いから早く持つて來て下れ。』

『はい、畏まりました。』

女中が降かて往つたかと思ふと、間もなく勇五郎を案內して來た、同時に準備が整うて居つたものと見へ、他の女中が料理の膳部を運びて來た。

勇五郎は、例の混袍姿に傾す、今日は小薩張した双子の袷に、千筋の少し古びては居るが糸織の羽織を着て、紺博多の耳の遠けたを締め、幾鑛頭を美に剃つて居る。

大川は床柱を背負て座し、其左右に勇五郎と清糸が座つて、清糸の紹介で初對面の挨拶を濟ました、そして酒三行の後、大川は勇五郎に對ひ

『時に勇五郎さん、立入つた事を聞くやうですが、貴方は古道具とか御商法ださうですが、如何です餘程景氣は能いですかな』

『然うか、直ぐ此方へ案內して下れ、そして何でも宜いから早く持つて來て下れ。』

『はい、畏まりました。』

女中が降かて往つたかと思ふと、間もなく勇五郎を案內して來た、同時に準備が整うて居つたものと見へ、他の女中が料理の膳部を運びて來た。

勇五郎は、例の混袍姿に傾す、今日は小薩張した双子の袷に、千筋の少し古びては居るが糸織の羽織を着て、紺博多の耳の遠けたを締め、幾鑛頭を美に剃つて居る。

大川は床柱を背負て座し、其左右に勇五郎と清糸が座つて、清糸の紹介で初對面の挨拶を濟ました、そして酒三行の後、大川は勇五郎に對ひ

『時に勇五郎さん、立入つた事を聞くやうですが、貴方は古道具とか御商法ださうですが、如何です餘程景氣は能いですかな』

東城新報

殖民の減少

吾人の同胞植民族は、太平洋對岸の友邦に於て激しき憂惧と反抗によりて其移住を制限せられたり。

又其保護國に於てすら次第に移住を減じ、今や仁川、平壤の如き樞要なる殖民地に於てすら衰頽を示しつゝあり、更らに其著しき事實は關釜連絡船乘客の往來によりて知り得べし。

是れ果して膨脹的日本民族の狀態なりとせば、憂ふべき狀態ならずや。

京元鐵道と安奉鐵道

最も簡明に說明すれば、滿韓交通の連絡は之を非經濟的なる安奉線よりは間島吉林線を以て代ふるを利便なりとす。

是を以て安奉線改良を止めて、之を京元線に變改するを以て善しと爲す。

太皇帝東遊の說

傳ふる處に由れば帝は其最も愛憐せらるゝ東宮を見んが爲め、又我帝國の皇室を訪問して感謝せんが爲めに近頃東遊の御意あるものゝ如しと、果して然らんには是れ韓皇室に於ける異常の決斷なり、又善良なる國策なり。

官民共同の時代

韓國在留者が我官吏に對して冷淡なる今日より甚しきは無し、到處の商民農民乃至有力なる在留者は統監府設置以來、悉く都合圖白からぬ事のみに遭遇し、今や口を緘して新時代を要求し、新人物を要求し、甚しきは統監府を巨大の怨府視するに至れり。

我傳は其譯を知らざるも、斯く爲さしめつつある狀態を目して甚だ氣遣はしき趨勢なりと信ず。

浪人漸く登用せらる

京城に徘徊し、何れも其才能を抱いて風雲を期待したる大浪人小浪人は、近頃に至りてボツボツ官府に登用せられつゝあり、是れ半島政治の爲めに賀すべき事なりとす。只だ其能を用ひ、其才を盡くして終を全うせしめよ。

電氣鐵道

コールブラン氏は其特許を看板として、無作法なる、不都合なる、壟斷せる鐵道政略を斷行せり。

故善せざる、非文明なる特權は、開明國に於ては通用せしむべからず、開明國民は宜しく彼の特權を非認すべき權利を示して可なり。

東京電報

▲韓太子の巡覽

韓國皇太子殿下は近日大磯より鎌倉箱根等湘南の各名所を御巡覽遊ばさる筈なり

▲櫻井房記氏の進講

元第五高等學校長櫻井房記氏は毎日韓國皇太子殿下に日本語の進講をなす事となれり(以上九日發)

雜報

京城日報一家言子に呈す

衰へたる存在なるところでなく新年早々大敵を挙遷せしめ其除勇を以て一家言欄に樣大の筆を揮はるゝ伊藤社長の勞は小牛の午隆多しと致し居候處に御座候

昨九日の一家言は道がは背取った柄其文章の開雅なる京城第一と稱すべき價値はア分有之候事と存候、之程に文字を使用する技術に長けたる君がツイ此頃まで天の岩戸に隱れ居られたるは京城文壇の爲に一大損失にして此損失は今後君の倍覿の勤勞によりて埋合さるゝこと〻確信致候否斯くす君の責任かと被存候

併し文章の旨いは君に於て小生の慥かに敬服致し候ところに相違無之候得共如何にせん君の大量にては御用記者は到底勤まるべくもあらずと被存候何となれば君が筆を親らする一家言は歷々君の不適任を證明致し居候

一体御用記者としての君が統監政治に就て是非の評が世間に存在することを認め居らるゝ事が大間違にあらずやと被存候統監は神聖なり御用記者は須らく獨斷ならざるべからざるものには候はずや

又たゞ文物典章を整ふるを以て政治の本義と心得居らるゝ公の機關紙に文物典章固より喜ぶべし、されど結局は國民の發展を要すべし、書くは公の政策に根本より反對するものには無之候や

又韓暴徒の爲めに地方に於ける邦人多年の經營を一擲せられたりとか或は暴徒の害の爲に假令知るべきのみの數丈でも韓國を見限りて日本に歸りたる者がありなどゝは決して君の筆にすまじき事には候はずや何となれば君の御主人は今や內地に於て公私の人々に向て韓暴徒の絕滅及無害なるを廣告し居らるゝことは君の御存知の通りに候之を要するに折角の御奮發なれども君の今の態度にては御用記者とは見り申さず候御用心成れかし候へ遠からず天の一方より落雷有之らんと被存候杞憂に堪ねざるまゝ本書を呈し候 安言多罪

太皇帝日本に行

太皇帝は英親王を見んが爲めに日本に行くとの內意を數日前侍臣に洩されたりと云ふ

清津港の開放

韓廷は昨日勅令を以て咸鏡北道富寧郡清津開放に關する件を公布したり其條文左の如し

第一條 隆熙二年四月一日より咸鏡北道富寧郡清津港を開放し外國通商港とす

第二條 清津港に出入する船舶及貨物には他の開港場に行ふ條約及規定を適用す

第三條 清津港に在る土地の所有及其課稅に關する規則は別に之を定む

稅關管轄區域改正

叙任辭令

任統監府鐵道管理局事務官(三等)一月八日附 遠藤剛太郎

任統監府技師(七等)一月八日附 武石鼎雄

任副理事官(七等)一月八日附 山縣鶴馬

任統監府技師(八等)一月八日附 [illegible]

任統監府技師(七等)一月八日附 村上龍造

任統監府技師(八等)一月八日附 多賀谷小次郎

●上村事務官 統監府通譯官にして總理大臣秘書官及學部事務官を兼任する上村正路氏は大使完興君の隨員として東上中大に

●廣田囑托の出張 統監府教育事務囑托文學士廣田直三郎氏は今回學部視察の爲め釜山、大邱、京城の各理事廳管內へ出張を命ぜられ來る十三日頃出發往復約三週間の

●仁川●役所●豫算會議 去る十三日仁川民役所に於ては助役會計及各係長の豫算會議ある筈

運送規定と貿易會社

二月一日より實施さるゝ鐵道運送規定に關し仁川會議所より日韓貿易會社に其意見を徵したるに會社に於ては大体に於て贊成するも左の各項につき意見を添へ會議所に回答したり

一運送取扱人の納入する身元保證金は其最低額を金一千圓とする事

理由 少額の身元保證金は以て確實に信用ある取扱人を獲拔する能はず玉石混淆終に今日の狀態と異ならざる結果を生ずること〻あるべし

一貨物賃銀の納入は現金の外特殊局指定銀行の各取扱人振出小切手代用を許す事

理由 市中銀行の營業時間は普通午後四時なるを以て其後の現金授受に困難を來すとあり折角第四條の規定により延長されたる納入の時限の効能を減殺する事

一承認貨物取扱人以外の者が本則割引の特點或は本則に優越する恩典を與へさる事

理由 承認貨物取扱人以外の者が從來の如く直接管理官との契約に於て自由に特點及恩典を有する事を得ば承認貨物取扱人の營業範圍を侵害し延て本則制定の趣旨を沒却するに至るべし

●仁川金融組合の回收 仁川金融組合に於ては同組規約により貸出金の半額を第一銀行へ返濟せざるべからざる次第なるを以て本月末頃より信用貸出金の回收に着手すべしといふ

●會社創立の眞相 今回京城に於て富豪の白完赫趙彰漢等外十數名の發起にて株式を募集し材木柴炭會社創設の趣意書を發表したる內容を探聞するに同社の創設は下濟州島に配流中なる朴泳孝の計畫に出でたるものにして現に發起人中なる甲應熙李主完の二名は朴泳孝の內意を受け組織せしめたるものにして朴泳孝が之を爲したる魂胆は富豪を集め夥多の金額を出捐せしめ他日已が政界に飛躍するの資に充てんとする心意なりと云ふ

哈爾賓の商業一班

哈爾賓に於ける我國の商業は微々として振はず僅に散點せる日本品の商店も重に清人又は露人の手になり我國人の同地に在留せるものとては醜業婦のみといふも過言にあらず今此地を中心として四方各地の狀況をたづねて以て我國が將來如何なる關係を保つべきかを觀察せんに先づ西伯利亞鐵道の哈爾賓に及ぼす影響はさまで多大なるものにあらずその運賃に多額を要するが爲め西歐より同地に輸送さるゝ貨物は甚僅少にしてバイカル湖を境界として其以東に產するものは哈爾賓に集まり又合爾賓より同地方に輸送さるゝも湖より以西の貨物は合爾賓に來るものの極めて尠し又東清鐵道の同地商業に影響を及ぼす勢も亦甚大ならず元來露國は西伯利亞線の合爾賓浦潮間に於て利益を收めんとせるが故に東清鐵道の運賃は合爾賓浦潮間に於ける大差なく爲に貨物の輸送は連絡に依りて南滿各地に輸送さるゝは頗る僅少なりとす長春は恰も其境界にして同地以南の產物は南滿鐵道に依りて南下し特に豆粕の如きは態々南滿各地方より長春なる豆粕製造場に向け發送され更に南に戻る有樣なれど南滿より長春以北特に哈爾賓に向つて輸送さるゝ貨物に至つては甚だ憐むべき狀態に在り之に反して長春以北の產物に至つては哈爾賓に集散するもの多大なりとす愛に東清鐵道の輸送貨物を多からしめんと欲せば南滿の發達を企圖する事最も必要にして若南滿に於ける作物の需用增加し遠く合爾賓より各種の貨物輸送せらるに至らんか東清鐵道を經て南滿鐵道に依るの便利なる必やや露國は東清鐵道の運賃を低落せしむるなるべし何となれば露國が東清鐵道の運賃を高くし專ら補償に向け貨物を輸送したる所以は一に日本を目的とし同地より海路日本海方面に送り出さんが爲なりなほ暗せらるゝ如く大連上海間の直通航路開かれ南清に出づる貨物の增加を見るに至らば東清鐵道の運賃に影響を來すは疑なり若し夫れ合爾賓より補償に至る西伯利亞線に至つては實に合爾賓の生命を扼する重要の鐵道にして日本との間に於ける輸出入のみならず遠く歐洲との輸出入も又運賃の低廉なる海路に依りて爲さるゝが故に此間の鐵路及び東清鐵道は日を逐ふて繁忙を極むるなるべし

要するに合爾賓に於ける商業上の範圍は西は加爾湖の南方を境とし南は長春に其勢力を限られ唯合爾賓以東の西伯利亞鐵道のみが最も重要の通路に當るものなれば吾人は宜しく精力を此地に傾注して益々我貨物の販路を擴張すると共に一面には南滿洲及び南清との交通を益々發展せしめ長春を以て通商上の境界線なるかの如き現在の狀態を打破する事最も肝要なりとす

●郡吏暴徒に通ず 江原道楊口郡主事任賛翊は九月以降郡守の事務を管掌せるを奇貨とし郡內各面長より金圓米穀煙草其他彈丸用鉛を發し郡內を徘徒に供給したること〻は該主事の自白するのみならず發見せる證據物件に由り事實明白なるを以て刑事訴追に附せらるべし

●暴徒駐在所を襲ふ 一月一日午前一時約八十名の暴徒全羅北道淳陽郡邑を襲ひ在留日本人一名を殺し尙巡査駐在所を射撃したるを以て巡査は同邑郵便取扱所員と協力應戰し交戰約一時間にして賊は死屍一銃五を遺棄して四散せり

●廣州の賊 一月四日廣州分遣隊は廣州西北約三里大母山附近に於て賊二十七を遭遇し其入を殺したり此賊は斗毛浦騎兵隊の追擊を受けたるものゝ如し

●議人●會●新●年●會 愛國婦人會京城龍山役員會員有志は既報の如く一昨日午後二時日本人倶樂部に於て新年會を催したるが當日は男女の歡なる數十名に達し午後[illegible]時過ぎ散會せしは午後四時なりき

●大輪協會の演說會 來る十一日午後十時[illegible]

●[illegible]集 [illegible]

●[illegible]

●[illegible]

●[

東京城新報社

謹告

十二月 日

三面公開狀

△△生

蛇茶式部に與ふ

蛇茶式部諸君、諸君が此の嚴冬に寒を犯し霜を踏んで毎朝學校に通ひ、諸君の兩親も亦血の出る如き尊とき金錢を惜げもなく諸君に貰ぎて學を授け、智を磨しめんと欲する所以のものは、是れ言ふ迄もなく諸君が他日社會に立つて完全なる良妻賢母たるの資格を具しめんと欲するの志に外ならざる、文部當局者が近來諸君に向つて殊に体操の一科に重きを置き、教師をして、「あられもなく花の盛りなる諸君を驅つて胸を前に、尻を後へ、一、二」と丁寧反覆に教授せしめ、果ては飛んだり、跳ねたり、廻つたり、躍つたりするに輔ら諸君の行爲を敢てするは是れ即ち偏に諸君の身体を全して一般に其の頭といはず、手といはず、足といはず、又尻といはず、圓滑とやうに發達せしめ以て將來の日東國民の母体をして頑丈に且つ强健ならしめんと欲するに過ぎざるなり、然り健全なる身体には健全なる精神宿る、諸君はよろしく此の意を服膺し、一面に於ては尊心學を修め智を研くと共に又他面に於ては大に飛び大に跳ぬ大に廻り且つ大に躍るの心掛けなからざるべからず、然り而して諸君は居常愛に恩を注ぎ意を致したるの結果其の体格に於ては流石の常陸山、梅ヶ谷も尚且つ三舎を遜くる程の發達を遂げ、中には腰部の邊り、さながら四斗樽に荒縄をひん巻けるが如き奇觀を呈する者を見るに至るは是れ大に悅ぶべき現象なりとす、然れども悲い哉諸君の中には其の体格に於ては一毫の批難すべき點なしと雖も其の思想操行に於ては全然教科書と相反し世人をして驚然として眉を顰めしむるものあり、まこと嘱は神聖なりとか、自由なりとかは是れ常に諸君の口を衝て出づる所の言葉にして甚だしきは途にハイカラ式の年壯き男の通行するあるを見んか、直ちに一斑の秋波を廻りながら、言混りの笑聲を用ひも憚らず、身のあられもなく、惚れたとか好いたとか言葉を微かに口にするものすらあり、而して偶々是等の不始末なる事が國の實家に知れ、頑固なる親爺が樂鐵頭を振り廻はして意見の一つも加ふものあらんか、ソレこそ親爺はよい災難、娘は立ろに三寸不爛の舌を揮つて嘱々驚何の辨を弄し「だからた父さんは今時の事は何も知らないといふのです」と口角泡を飛ばして說破するに、親爺は終に閉口し、我が娘は却て愛き者よと心私かに嘆賞する頃には登に國らんや娘は既に嘱ラブの研究に度が過ぎて早やボテレン木魚の觀態を演じ居るものあらんとは、尤も斯の如き極端なる例は甚だ稀なりと雖も要するに今世の式部諸君が概ね浮華淫靡の風にのみ流れ、又貞淑溫雅なる美風の缺如たるものあるは大に浩嘆に堪へざる所とす、思ふに諸君の年頃は今や過度時代に屬す、然り過渡時代は人間一生の重大時機なり、思想の夫を持つも持たざるも是れ一に今の心掛けにあり、諸君夫れ大に三思せずして可ならんや。

叙任辭令

任統監府鐵道管理局事務官（三等）一月八日附 遠藤剛太郎

任同理事官（七等）一月八日附 武石 胤雄

任統監府技師（六等）一月八日附 鶴川鉄 敬馬

任統監府技師（七等）一月八日附 村上 龍造

任統監府鐵道管理局事務官（三等）一月八日附 多賀谷小次郎

●十二月中の裁判取扱數 昨年十二月中仁川理事廳に於ける裁判取扱件數は如左

民事訴訟三十三件、一刑事十一件、一支拂命令十件、一假差押假命令十五件、一强制執行二件、一强制執行假豫審三件、一支拂命令十件、一假差押假責一件、一證據保全一件、一非訟事件三件、一不動產登記六十一件、一商業登記十七件、一確定日附三十三件、一共助事件一件、一土地建物査證證明三十九件、一號賣不動產一件、一雜事件一件、計二百三十二件

●十二月中の犯罪 昨年十月中仁川理事廳に於ける犯罪數は左

▲徵兵令違犯二件 廣島縣生れの淺村若松郷兵補充兵陸軍歩兵二等卒なるに昨年一月一日の點呼に出頭せず▲石川縣生れの村谷仁三郎は昨年徵兵適齢なるに六月八日徵兵署へ出頭せず何れも當地に滯在し居りたるが頃日これが發覺して檢擧せられたり

●閥燒き騷ぎ 何も朝鮮三界迄流れ來て料理屋遊びや女狂ひをするが稼業でもあるまじきに詰らぬスベタ女に現を抜かし果ては醜の行き掛りから國からの友達と血を見るが如き暴挙をなすとはサテモ笹目の違つた奴共なり處は筆洞の越適家とかに一昨日二人連れの客來り寸法通り酒と肴と女とを注文せしが其の一人の客といふはつひ傍に侍りしたもとゝかいふ女とは驚て馴染の間柄にて始めの程は一人の友達の手前何となく素知らぬ風を裝ひ居りしが酔の漸く廻るに連れいつしか惚氣の嬉しき話が高じたりしかば一人のお客も酔ひし機嫌の默つては居らず人を誘つて置きながら其の惚氣は何事かとイキナリ傍に在りし杯を投げしに杯は先方の頭に當て微塵と碎け間もなく酒席は一場の唐紅を染め驚きしにそ事は大に面倒になり双方立ち上つて毆つやら撲ならのの騒ぎを演せしが漸く仲裁する人あり て其の場はそれにて事濟みしが撲を受けし一方の友達は黙つて承知せず今にそうして呉れるか見て居れと飼家を去るときに意氣軒き居れりとの事なれば迚て何處にか又々惚氣の喧嘩が始まらねばよいが

●盜人は小使 當地の漢城病院に於ては過般來種々の物品の紛失するより其の旨警察署へ屆出で警務署の刑事は百方捜索の結果同院の小使大政府東區平野町の井原政次郎（三十）の所爲なることを認め同人を訊問すると果せる哉十一月中旬より十二月十日迄に水準器一個、圓刄刀二個、鍍鬼針四個、異重計一個、檢温器六個、英法粹創膏一個、鉛筆一本、剃刀二個、懐中電燈一個、鉄二個、箱子四個、反鉄一個、探膽針一個、耳鑷子二個、試檢鉄一個、注射器函一個、縮緬財布一個、ズボン一着と七圓を窃取し又十一月廿八日の夜に試驗室の金庫にありし十圓紙幣一枚十二月十日の夜に同上十二月某日に入院患者田河福次郎宛差入の内にありしピストル銃一挺を窃取したることを自白し昨日檢事局送りとなれり

●靴泥棒 住所不定の韓人金夏見（三）といへる者去る六日の午後一時頃龍山元町四丁目川越藤之進方の裏口より忍び入り靴二足を窃取し當京城の大平洞の田典當局に持ち行き入質せんとする所を川野巡査が汪散な奴と認め取調べた所前記の事實を自白したるにより直ちに捕縛せられたり

●平田商店の賣引開鍛 京城本町三丁目平田商店には去る五日新聞社員立會の上賣引勞の開鍛をなせしと因に同店の賣引勞所持の方は至急景品と引換られたしとなり

●歌舞伎座替狂言 歌舞伎座に於ける若葉會演劇本日の藝題は『藏奴死刑』（全七幕）

菊地檢事補長（岩尾）書生木村（池田）本田幸一（千島）飯田看守長（若宮）藝者菊丸（橋）妹藝者時龍（高木）中川作次郎（上野）典獄藤田（字野）横柳北仙（淺井）舞子小峰（平井）檢事熊尾猛（大町）今井寶（小喜多村）

安全なる滊船

（米國海軍技師の豫言）

今後二十五年間に、左のやうな船が出來て航海は最も完全に、極めて心易く無事に出來るであらうとは、米國海軍の技師デエオールドハム氏の豫言である。其の大汽船は

長さ 千二百呎

幅 百二十五呎

深さ 八十一呎

吃水 四十呎

總噸數 六萬七千五百噸

船客定員 六千七百人

機關 十七萬馬力

速力（一時間） 三十五哩

燃料（一時間） 千七百萬弗

全體二重甲

である。オ氏の考へによると、右のやうな船が、今後二十五年間に必ず大洋航海の商船となつて現はれて來ると相違ない。之れは平時には、商船の用を示し、戰時には、巡洋艦の用をなすやうに設計せられるであらう。其れであるから堅固な保護甲板を有し、船側の上部の外側はニッケル鋼鐵を以て蔽ひ、内側には極めて强き延長性を有する鋼鐵を用ゐるのである。

船底は又た麻栗樹を以て包み、且つ銅を以て其の上を覆ふて衝突の際、暗礁に乘り上げし場合の危險を防ぐのである。

船底からズット甲板まで達する隔壁を附ける、縦のものが二つ、横のものは二重にして二十四、丁度格子のやうに仕切りが出來る、そして其の仕切りの間と間とを通ずる

●婦人會新年會 愛國婦人會京城龍山役員會員有志は既報の如く一昨日午後二時日本人倶樂部に於て新年會を催したるが當日は日韓夫人の歌なる者數十名出席したる外時遠常總會を西洋光化門前官人倶樂部に於て開催し會務處理終つて左の演說を爲す

一、開會の効力 南宮俊

一、亀鑑の得失 郭弼

一、地方の現況 郭雲復

一、婦人の勉學 桂川鄭

●八日參内者 昌德宮總計四十一人 慶熙宮總計七十一人

●上村事務官 統監府通譯官にして總理大臣秘書官及學部事務官を兼任する上村正已氏は大使完興君の通譯として東上中大に出入口と云ふは一つもない。皆どの仕切りにも昇降器があつて上の方から出入する推進器は五つあつて、之れを動かす機關の馬力が十七萬、出す速力は一時間三十節である。

汽鑵の數が六十、煙突が十二、特に其の船に著しき點は强大なるポンプである。そして特別に二千五百噸の水を入れて置く事の保險のやうなものだから、決して客を得るに苦まぬであろう。

扨てそれで全く安全なる船が出來上るのである。愈々海上を走る時の勢は、何程かと云ふと、全速力の時には、丁度六十哩の速力を以て、進行中の四十の列車と同じ程の勢である。こんな恐ろしい勢で走るのであるから、若し小さな船なぞが、それに打ちぶつかるもんならうれこそ大變、この船自體は何處迄も安全であると共に衝突した他の船は最も危險であらう。

廣告

西洋御料理宴會

日本人倶樂部

京城南山町三丁目（電話一二三番）

韓病院

一般患者之依頼に應ず

院長 橋本三男

醫員 吉田定見

同韓國軍醫 蔡永錫

劑師藥會計 濱口源太郎 井口平治

龍山青木病院長隔日出張 青木清六

入院隨意

京城新王城大漢門前

著名 産婆案内 いろは順

内務省許可 京城明治町一丁目 伊集院兼子（電話架設中）

内務省許可 京城旭町三丁目 伊藤智滿子

内務省許可 京城明治町一丁目 岩永滋野

内務省許可 京城明治町一丁目 濱崎辰子

内務省許可 京城壽町三丁目二十六番地 堀越直子

内務省許可 京城明治町五丁目十八番地 田淵左姫

明治二十五年開業 内務省免許 京城本町四丁目三十番地 土山峰子

内務省免許 京城本町六丁目 京都帝國大學病院產科婦人科勤務を辭し肩書の處へ開業致し候 築山久野（電話二一六番）

内務省許可 京城壽町一丁目（坂井病院内）

明治二十四年開業 内務省免許 京城明治町三丁目一番地 三池鶴代

許可 京城明治町三丁目一番地 胞衣取扱所

明治二十四年開業 杉原花子（京城南山町三丁目 日本人倶樂部上）

營業科目

土地家屋鑛山山林賣買ノ仲介

灌漑排水事業設計應依頼

土地整理並丈量應依頼

鑛山未墾地出願代辨

土地家屋賣買手續代辨

外國旅券出願代辨

新聞廣告取次

電話賣買取次

韓國に關する著書雜誌閲覧

韓國に關する非賣出版書閲覧

韓國に關する本社調査書類閲覧

商品依託持約代理店ノ仲介

▲弊社は誠實秘密且敏速に業務を營む

●宅地及韓人家屋の賣物あり

●商店向其他の貸家あり

●鑛山の賣物あり

●耕地未耕地の賣物あり

▲弊社は各方面に渉り各事項を調査す

本社 京城永樂町一丁目八番戸報事務所

京城仲介社

支社 東京 東京麹町區内十見町 伊藤傳次郎 大阪 尼ヶ崎宇宮町 仁川 新町一丁目 釜山 釜山入江町一丁目 大邱 東門外 佐賀 佐賀市 熊本 熊本新一作 吉岡 吉岡元町 大平壤 大和町 鏡城 鏡城北門内 元山 元山居留地 水原 水原南門内 開城 開城西部 鐵南浦 鐵南浦西二丁目 木浦 木浦三丁目 釜山 釜山入江町一丁目 遠藤 遠藤喜平 佐賀 佐賀市 久留米 久留米郵便局 曹平 曹平支店 今井 今井口直三郎 稲本 稲本清市 古田 古田谷一郎 又吉 又吉三郎

會席御料理

並に出仕し

京城西小門内

福來亭

忠實と熱心を以て訴訟登記其他諸般の代書依頼に應ず

明治法律學校出身

增本好二郎事務所

京城本町二丁目一番地

チャンピオン消火器

合資會社日本中央商會

本社日本東京淺草區茅町

出張所京城南治町二丁目

營業科目

活版活字鑄造

石版銅版

コロタイプ

彫刻諸印刷

諸帳簿

製本裝釘

本社 京城明治町二丁目（電話三二三番）

日韓印刷株式會社

東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地（電話銀座三九六二番）

齒科全般の治療

米國最新式義齒

米國齒科醫學博士 京城本町六丁目（鉄砲橫町） 女醫 中村安子

統監府各官衙御用

荷物荷造及運搬

伊藤友松組

本店 京城本町三丁目（電話七四三十二番）

營業部 伊藤

木炭着荷

京城南大門通三丁目

英兄弟商會

電話九四八番

本店

内地及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市

韓國支店及出張所 下關、釜山、仁川、元山、鐵南浦、木浦、群山、鐵城

清國出張所 平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鐵城

及出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

電話 營業部 一一番 國庫部 六一一番

番號 當直用 同 副支配人 竹山太郎 六一二番

營業部 三三一番 原盛宏郎 六一三番

總支配人 市村雄次 副庫長 三島純平 調査部長 市村雄次 營業部長 市村雄次

弊店儀是迄本町通に於て營業罷在候處今般新築家屋に移轉仕候然る處都合により一時營業の全部を中止仕候營業中は不一方御愛顧を蒙り候段奉深謝候尚時機を待て再び營業仕候間更に舊に倍し御引立を蒙り度候謹て新築移轉御披露旁營業中止の御挨拶申上候也　頓首

京城南大門通二丁目九番戸
（專用電話一五三番）

三好和商店

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚
本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦
芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社
京城出張所
（電話二十六番）
仁川出張所
（電話六十三番）

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金　參百萬圓
積立及繰越金　七拾貳萬圓
（京城南大門通電話四二〇）

株式會社 十八銀行 京城支店

本店　長崎市築町
支店出張所　京城、龍山、仁川、木浦、釜山、羅州、群山、浦鹽
韓國
日本　大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金（一口壹錢以上何程にても御預り申候）（利息日步壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

核、材木、竹類、蠟灰
座敷廻り諸材料特に注意取揃あり
右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部

京城旭町一丁目
電話七四四番
本宅四〇五番

新築移轉廣告

弊院儀從來の家屋にては狹隘を感し候間今般肩書の所へ新築移轉仕り一層叮嚀懇切に各科の治療に應し可申候

追而無代施療券配布方を民團役所へ托し置き候に付樂價に苦む貧民諸氏は該券請求の上持參あれば無料治療に應可申候

長谷川町二丁目

蘇生病院

新築落成
龍山元町壹丁目
電話四六六番

會席御料理八景園

開店披露

弊店儀從來仁川に於て通關運送業罷在候處今般京城御得意樣各位の御勤誘に隨ひ南大門驛通り支店開設可嚀確實且つ極めて迅速に取扱可申候間何卒倍舊御立の程伏て奉願候　敬白

仁川驛上通關運送店
電話七一六番
小宮山
京城南大門外
同支店

內外書籍新聞雜誌

和洋雜貨日用品

文房具學校用品

大阪朝日新聞　一ケ月　四十五錢
同毎日新聞　一ケ月　四十五錢

京城本町三丁目
太平田商店
（電話百十五番）

工學博士
藥學博士
高峰讓吉氏發見
胃腸
ヒトカ
タカヂアスターゼ
新藥

仁川倉知商會
電話一三一〇番
（韓國一手御元）

▲貨物船積卸
▲龍山行運送
▲右の外般の事務
仁川濱町一丁目
福組
同　波戸場出張所
（電話五四二番）

會席御料理並に仕出し
西小門內
橫濱亭

新造最良口附紙卷煙草
진조최량제물부민지권연초
滿月

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

太店　大阪市西區北堀江通五丁目
支店　釜山、仁川、平壤、鎭南浦、安東縣

株式會社 **第五十八銀行 京城支店**

（電話五八番）

爲替取組先
東京、山陽、南海、北陸、西海、內地、山陽、海道、北海道、清國、韓國
二十七ケ所
十三ケ所
七十五ケ所
十三ケ所
二五ケ所
二十八ケ所
十三ケ所
十三ケ所
一九ケ所

米韓電氣會社
電車（線區域賃金）改正

新年一月一日以後は從來の切符を凡て現金にて一區金五錢宛受持車掌共へ御拂渡致下度候

龍山線　鐵路より京仁鐵道交叉點迄
幹線　京仁鐵道交叉點より龍山迄
麻浦線　東大門より西大門迄
東門外線　西大門より孔德里迄
　　東大門より清凉里迄
　　孔德里より麻浦迄

一區金五錢
二區付錢
一區
二區
一區

既に御買求の切符は新年一月一日迄の內鐵路本社に於て御歸にても買戻可致候若一月一日以後尙乘車賃として御使用の場合は前記一區二付貳枚宛申受候事

公債株式現物賣買

叮嚀、確實、安價に取扱申候間多少不拘御用命之程奉願候

龍山櫻町（青木病院前）
質商　梅尾圓八商店

出寫專務

審美館
寫眞師　高原基泉
寫眞師　奧田星華
明治町二丁目衛戍病院前

熊平製造金庫
韓國販賣部
京城本町一丁目
熊平商店
（電話六二四番）

東京　竹內製金庫
大阪二重瓶並ニ同博式　浦火器

南山町一丁目
（植村病院前）
賞席待合　**春乃花**
客室は清潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

味噌醬油製造
乾物荒物罐詰
銘茶食料雜貨
京城本町五丁目
漬物問屋　大上商店
（電話二五一番）

日本郵船會社
滿船仁川出帆廣告
（電話二十番）

仁川海岸通　郡回漕會
貨物及船客取扱店
京城南大門通　巴商店
（電話三〇六番）

一切て差上置候礦引景品は今七日抽籤可致候間此段廣告仕候也

礦引抽籤延期廣告

客の處準備に遲ひ兼候間來る十二日（日曜日）迄延期仕候

京城本町
四ケ所洋物店

●釜山長崎門司神戸行
山東丸　一月二十五日後三時出
●釜山門司神戸大阪行
淡路丸　一月十四日正午十二時
●群山木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
浦汐丸　一月日後三時出
第一オハヨ號　一月日後三時出
●大連、大沽行
泗田丸　月日後一時出
●大連行
營口丸　一月十日後一時出
新潟丸　一月廿四日後一時出
●大連、芝罘、營口、皇島行
西東丸　一月十四日午九時出
●鎭南浦安東縣行
第一オハヨ號　一月日後三時出
汐丸　一月日後三時出
●釜山出帆元山行
弘濟丸　一月二十九日

注意
御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送迎可申候
船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事